

I 調査の概要

1 調査の目的

看護職員確保のために、職場環境づくり等に取り組んでいる施設の実態を調査し、看護職員の離職防止・定着促進のための対策の基礎資料とする。

2 調査主体

広島県 【調査実施：公益社団法人広島県看護協会(委託)】

3 調査の時期

令和6年12月13日～令和7年1月17日

4 調査対象及び調査方法

県内の全病院である231病院（令和6年9月30日現在）を母集団として、病院の看護管理者（看護部長等）を対象に自記式調査票（Ⅲ参考資料 資料1，資料2）を郵送し、返信用封筒により回収した。

5 回収数及び有効回答

回収数及び有効回答

調査客体 (a)	回収数 (b)	回収率 (b) / (a)	有効回答数 (c)	有効回答率 (c) / (b)
231	181	78%	181	100%

6 本文の表し方

- 1) 看護職員は、保健師、助産師、看護師及び准看護師をいう。
- 2) 正規職員とは、原則としてフルタイム勤務であり、雇用の形態が無期雇用かつ直接雇用の職員をいう。なお、常勤、非常勤は勤務時間により区分するもので、常勤職員はフルタイムで働く職員のことをいう。
- 3) 新卒とは、看護師等免許取得後1年以内をいう。
- 4) 回答率（項目の回答の百分比）は、小数点第2位を四捨五入した。
- 5) 本文、統計表等で用いた記号等の意味は、主に以下のとおりである。
 - (1) 「n」はその質問に対する回答数であり比率算出の基数である。
 - (2) 統計図表の「-」は計数がないことを示す。「0」は、計数はあるが四捨五入をして0であることを示す。

- 6) 離職率の算出は次の計算による。

○ $\text{正規看護職員離職率} = \text{令和5年度正規離職者数} / \text{令和5年度平均正規職員数} \times 100$

▶ $\text{平均正規職員数} = (\text{年度当初の在籍職員数} + \text{年度末の在籍職員数}) / 2$

○ $\text{正規以外看護職員離職率} = \text{令和5年度正規以外離職者数} / \text{令和5年度平均正規以外職員数} \times 100$

▶ $\text{平均正規以外職員数} = (\text{年度当初の在籍職員数} + \text{年度末の在籍職員数}) / 2$

○ $\text{新卒離職率} = \text{令和5年度の新卒離職者数} / \text{令和5年度の新卒採用者数} \times 100$

II 調査結果

1 病院の概要

令和6年4月1日現在の病院の概要は次のとおりであった。

1) 設置主体別病院数

設置主体別で最も多いのは、「医療法人」120病院(66.3%)、次いで「区市町」15病院(8.3%)であった。(表1)

表1 設置主体別病院数

(単位：病院(%))

設置主体	病院数	備考
計	181 (100.0)	
国公立大学法人	1 (0.6)	
独立行政法人	12 (6.6)	
区市町	15 (8.3)	都道府県=4, 市町村=11,
その他公的医療機関	8 (4.4)	日赤=3, 厚生連=3, 済生会=2
医療法人	120 (66.3)	
個人	3 (1.7)	
会社	3 (1.7)	
その他の法人	9 (5.0)	社会福祉法人=4, 医師会=2, 医療センター=1, 一般財団法人=1
その他	10 (5.5)	共済組合及びその連合会=5, 医療生協=3, 健康保険組合及びその連合会=1, 防衛省=1

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 保健医療圏域別病院数

保健医療圏域別で最も多いのは、「広島」74病院(40.9%)、次いで「福山・府中」35病院(19.3%)であった。(表2)

表2 保健医療圏域別病院数

(単位：病院(%))

保健医療圏域	病院数
計	181 (100.0)
広島	74 (40.9)
広島西	10 (5.5)
呉	21 (11.6)
広島中央	17 (9.4)
尾三	16 (8.8)
福山・府中	35 (19.3)
備北	8 (4.4)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 稼働病床規模別病院数

稼働病床（以下「病床」という。）規模別で最も多いのは、「99床以下」が67病院(37.0%)、次いで「100～199床」が64病院(35.4%)で、200床未満が全体の72.4%であった。(表3)

表3 病床規模別病院数

(単位：病院(%))

病床規模	病院数	
計	181	(100.0)
99床以下	67	(37.0)
100～199床	64	(35.4)
200～299床	25	(13.8)
300～399床	13	(7.2)
400～499床	5	(2.8)
500床以上	7	(3.9)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2 看護職員の状況

令和6年4月1日現在の看護職員の状況は次のとおりであった。

1) 正規・正規以外別・職種別看護職員数(実人員・換算数)

正規・正規以外別・職種別看護職員数の実人員は23,167人で、「正規」20,907人(90.2%)、「正規以外」2,260人(9.8%)であった。(表4-①)

換算数は21,873.6人で、「正規」20,214.4人(92.4%)、「正規以外」1,659.2人(7.6%)であった。(表4-②)

表4-① 正規・正規以外別・職種別 看護職員数(実人員)

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	23,167 (100.0)	101 (0.4)	499 (2.2)	20,901 (90.2)	1,666 (7.2)
正規	20,907 (90.2)	84 (0.4)	462 (2.0)	19,097 (82.4)	1,264 (5.5)
(男性)	2,557 (11.0)	9 (0.0)		2,382 (10.3)	166 (0.7)
正規以外	2,260 (9.8)	17 (0.1)	37 (0.2)	1,804 (7.8)	402 (1.7)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表4-② 正規・正規以外別・職種別 看護職員数(換算数)

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	21,873.6 (100.0)	92.3 (0.4)	467.8 (2.1)	19,789.9 (90.5)	1,523.6 (7.0)
正規	20,214.4 (92.4)	82.2 (0.4)	439.5 (2.0)	18,454.8 (84.4)	1,237.9 (5.7)
正規以外	1,659.2 (7.6)	10.1 (0.0)	28.3 (0.1)	1,335.1 (6.1)	285.7 (1.3)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 保健医療圏域別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

保健医療圏域別・職種別看護職員の実人員で最も多いのは「広島」10,724人(46.3%)、職種別では「看護師」9,896人(42.7%)、次いで「福山・府中」3,828人(16.5%)、職種別では「看護師」3,313人(14.3%)であった。(表5-①)

換算数でみると、最も多いのは「広島」10,050.0人(45.9%)、職種別では「看護師」9,295.8人(42.5%)、次いで「福山・府中」3,576.7人(16.4%)、職種別では「看護師」3,109.0人(14.2%)であった。(表5-②) また、看護職員の正規の実人員・換算数でも同様の傾向であった。(表5-③)(表5-④)

表5-① 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（実人員）

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	23,167 (100.0)	101 (0.4)	499 (2.2)	20,901 (90.2)	1,666 (7.2)
広島	10,724 (46.3)	37 (0.2)	234 (1.0)	9,896 (42.7)	557 (2.4)
広島西	1,453 (6.3)	6 (0.0)	19 (0.1)	1,365 (5.9)	63 (0.3)
呉	2,394 (10.3)	33 (0.1)	49 (0.2)	2,117 (9.1)	195 (0.8)
広島中央	1,800 (7.8)	8 (0.0)	32 (0.1)	1,624 (7.0)	136 (0.6)
尾三	2,182 (9.4)	5 (0.0)	42 (0.2)	1,921 (8.3)	214 (0.9)
福山・府中	3,828 (16.5)	6 (0.0)	92 (0.4)	3,313 (14.3)	417 (1.8)
備北	786 (3.4)	6 (0.0)	31 (0.1)	665 (2.9)	84 (0.4)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表5-② 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（換算数）

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	21,873.6 (100.0)	92.3 (0.4)	467.8 (2.1)	19,789.9 (90.5)	1,523.6 (7.0)
広島	10,050.0 (45.9)	32.2 (0.1)	213.6 (1.0)	9,295.8 (42.5)	508.4 (2.3)
広島西	1,406.2 (6.4)	5.8 (0.0)	18.8 (0.1)	1,322.7 (6.0)	58.9 (0.3)
呉	2,306.3 (10.5)	31.4 (0.1)	48.5 (0.2)	2,040.0 (9.3)	186.4 (0.9)
広島中央	1,699.4 (7.8)	7.8 (0.0)	31.4 (0.1)	1,533.2 (7.0)	127.0 (0.6)
尾三	2,084.0 (9.5)	4.4 (0.0)	39.3 (0.2)	1,851.1 (8.5)	189.2 (0.9)
福山・府中	3,576.7 (16.4)	5.9 (0.0)	87.4 (0.4)	3,109.0 (14.2)	374.4 (1.7)
備北	751.0 (3.4)	4.8 (0.0)	28.8 (0.1)	638.1 (2.9)	79.3 (0.4)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表 5-③ 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（正規の実人員）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	20,907 (100.0)	84 (0.4)	462 (2.2)	19,097 (91.3)	1,264 (6.0)
広島	9,757 (46.7)	28 (0.1)	222 (1.1)	9,081 (43.4)	426 (2.0)
広島西	1,339 (6.4)	5 (0.0)	18 (0.1)	1,265 (6.1)	51 (0.2)
呉	2,141 (10.2)	30 (0.1)	47 (0.2)	1,914 (9.2)	150 (0.7)
広島中央	1,594 (7.6)	7 (0.0)	31 (0.1)	1,456 (7.0)	100 (0.5)
尾三	1,942 (9.3)	4 (0.0)	38 (0.2)	1,750 (8.4)	150 (0.7)
福山・府中	3,451 (16.5)	6 (0.0)	85 (0.4)	3,032 (14.5)	328 (1.6)
備北	683 (3.3)	4 (0.0)	21 (0.1)	599 (2.9)	59 (0.3)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 5-④ 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（正規の換算数）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	20,214.4 (100.0)	82.2 (0.4)	439.5 (2.2)	18,454.8 (91.3)	1,237.9 (6.1)
広島	9,339.7 (46.2)	27.8 (0.1)	202.7 (1.0)	8,690.9 (43.0)	418.3 (2.1)
広島西	1,314.2 (6.5)	5.0 (0.0)	17.8 (0.1)	1,241.8 (6.1)	49.6 (0.2)
呉	2,117.6 (10.5)	29.5 (0.1)	47.0 (0.2)	1,892.3 (9.4)	148.8 (0.7)
広島中央	1,551.2 (7.7)	7.0 (0.0)	31.0 (0.2)	1,414.8 (7.0)	98.4 (0.5)
尾三	1,923.2 (9.5)	4.0 (0.0)	38.0 (0.2)	1,731.7 (8.6)	149.5 (0.7)
福山・府中	3,300.0 (16.3)	5.9 (0.0)	82.0 (0.4)	2,897.7 (14.3)	314.4 (1.6)
備北	668.5 (3.3)	3.0 (0.0)	21.0 (0.1)	585.6 (2.9)	58.9 (0.3)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 病床規模別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

病床規模別に看護職員数の「実人員」をみると、最も多いのは「100～199床」5,697人（24.6%）、次いで「500床以上」5,460人（23.6%）であった。また職種別にみると、最も多いのは「500床以上」の「看護師」で5,233人（22.6%）であった。（表6-①）

「換算数」でみると、最も多いのは「100～199床」5,320.7人（24.3%）、次いで「500床以上」5,143.2人（23.5%）であった。また職種別にみると、最も多いのは「500床以上」の「看護師」で4,933.9人（22.6%）であった。（表6-②）

病床規模別に「正規の実人員」をみると、最も多いのは「500床以上」5,172人（24.7%）、次いで「100～199床」の4,924人（23.6%）であった。また、職種別にみると最も多いのは「500床以上」の「看護師」で4,958人（23.7%）であった。（表6-③）

「正規の換算数」をみると、最も多いのは「500床以上」4,904.1人（24.3%）、次いで「100～199床」4,798.5人（23.7%）であった。また、職種別にみると最も多いのは「500床以上」の「看護師」で4,705.8人（23.3%）であった。（表6-④）

表6-① 病床規模別・職種別 看護職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	23,167 (100.0)	101 (0.4)	499 (2.2)	20,901 (90.2)	1,666 (7.2)
99床以下	2,658 (11.5)	6 (0.0)	37 (0.2)	2,144 (9.3)	471 (2.0)
100～199床	5,697 (24.6)	21 (0.1)	1 (0.0)	5,074 (21.9)	601 (2.6)
200～299床	3,863 (16.7)	18 (0.1)	51 (0.2)	3,460 (14.9)	334 (1.4)
300～399床	3,320 (14.3)	47 (0.2)	104 (0.4)	2,930 (12.6)	239 (1.0)
400～499床	2,169 (9.4)	1 (0.0)	92 (0.4)	2,060 (8.9)	16 (0.1)
500床以上	5,460 (23.6)	8 (0.0)	214 (0.9)	5,233 (22.6)	5 (0.0)

注 割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表6-② 病床規模別・職種別 看護職員数（換算数）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	21,873.6 (100.0)	92.3 (0.4)	467.8 (2.1)	19,789.9 (90.5)	1,523.6 (7.0)
99床以下	2,434.5 (11.1)	5.9 (0.0)	35.1 (0.2)	1,978.6 (9.0)	414.9 (1.9)
100～199床	5,320.7 (24.3)	17.7 (0.1)	0.4 (0.0)	4,755.9 (21.7)	546.7 (2.5)
200～299床	3,709.1 (17.0)	16.8 (0.1)	47.1 (0.2)	3,330.0 (15.2)	315.2 (1.4)
300～399床	3,152.8 (14.4)	43.3 (0.2)	99.1 (0.5)	2,782.3 (12.7)	228.1 (1.0)
400～499床	2,113.3 (9.7)	0.8 (0.0)	89.1 (0.4)	2,009.2 (9.2)	14.2 (0.1)
500床以上	5,143.2 (23.5)	7.8 (0.0)	197.0 (0.9)	4,933.9 (22.6)	4.5 (0.0)

注 割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 6-③ 病床規模別・職種別 看護職員数（正規の実人員）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	20,907 (100.0)	84 (0.4)	462 (2.2)	19,097 (91.3)	1,264 (6.0)
99床以下	2,283 (10.9)	5 (0.0)	31 (0.1)	1,897 (9.1)	350 (1.7)
100～199床	4,924 (23.6)	15 (0.1)	0 (0.0)	4,456 (21.3)	453 (2.2)
200～299床	3,422 (16.4)	15 (0.1)	42 (0.2)	3,113 (14.9)	252 (1.2)
300～399床	3,073 (14.7)	42 (0.2)	95 (0.5)	2,738 (13.1)	198 (0.9)
400～499床	2,033 (9.7)	-	89 (0.4)	1,935 (9.3)	9 (0.0)
500床以上	5,172 (24.7)	7 (0.0)	205 (1.0)	4,958 (23.7)	2 (0.0)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 6-④ 病床規模別・職種別 看護職員数（正規の換算数）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	20,214.4 (100.0)	82.2 (0.4)	439.5 (2.2)	18,454.8 (91.3)	1,237.9 (6.1)
99床以下	2,188.8 (10.8)	4.9 (0.0)	30.0 (0.1)	1,815.8 (9.0)	338.1 (1.7)
100～199床	4,798.5 (23.7)	14.9 (0.1)	0.0 (0.0)	4,337.4 (21.5)	446.2 (2.2)
200～299床	3,358.1 (16.6)	14.9 (0.1)	40.8 (0.2)	3,051.5 (15.1)	250.9 (1.2)
300～399床	2,962.5 (14.7)	40.5 (0.2)	93.0 (0.5)	2,637.3 (13.0)	191.7 (0.9)
400～499床	2,002.4 (9.9)	-	86.4 (0.4)	1,907.0 (9.4)	9.0 (0.0)
500床以上	4,904.1 (24.3)	7.0 (0.0)	189.3 (0.9)	4,705.8 (23.3)	2.0 (0.0)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

4) 正規看護職員数の推移（実人員・換算数）

正規看護職員の推移をみると、令和6年度は令和5年度に比べ「実人員」は278人減少した。
 実人員で「看護師」は20人減少しているが、換算数では298.0人増加している。（表7）

表 7 正規看護職員数の推移

（単位：人）

年度	令和5年4月1日現在					令和6年4月1日現在				
	計	保健師	助産師	看護師	准看護師	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
実人員	21,185	78	460	19,117	1,530	20,907	84	462	19,097	1,264
対前年度						▲ 278	6	2	▲ 20	▲ 266
換算数	20,149.3	75.0	434.0	18,156.8	1,483.5	20,214.4	82.2	439.5	18,454.8	1,237.9
対前年度						65.1	7.2	5.5	298.0	▲ 245.6

(参考) 看護補助者の状況

正規・正規以外別看護補助者数(実人員・換算数)

令和6年4月1日現在の看護補助者の状況は次のとおりであった。

正規・正規以外別看護補助者数の実人員は4,158人で、「正規」2,394人(57.6%)、「正規以外」1,764人(42.4%)であった。(表8-①)

換算数は3,686.6人で「正規」2,347.7人(63.7%)、「正規以外」1,338.9人(36.3%)であった。(表8-②)

表8-① 正規・正規以外別 看護補助者数(実人員)

(単位:人(%))

区分	計	
計	4,158	(100.0)
正規看護補助者	2,394	(57.6)
正規以外看護補助者	1,764	(42.4)

注1 令和6年4月1日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表8-② 正規・正規以外別 看護補助者数(換算数)

(単位:人(%))

区分	計	
計	3,686.6	(100.0)
正規看護補助者	2,347.7	(63.7)
正規以外看護補助者	1,338.9	(36.3)

注1 令和6年4月1日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3 令和6年度採用状況

令和6年4月1日から4月30日までの正規看護職員の採用状況は次のとおりである。

1) 新卒者・既卒者別採用状況

採用者数は1,323人で、その内訳は「新卒者」1,003人(75.8%)、「既卒者」320人(24.2%)であった。(表9)

表9 新卒者・既卒者別・職種別採用者数

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	1,323 (100.0)	5 (0.4)	39 (2.9)	1,228 (92.8)	51 (3.9)
新卒者	1,003 (75.8)	4 (0.3)	29 (2.2)	936 (70.7)	34 (2.6)
既卒者	320 (24.2)	1 (0.1)	10 (0.8)	292 (22.1)	17 (1.3)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 保健医療圏域別採用状況

保健医療圏域別の採用状況をみると、新卒者の採用が最も多かったのは「広島」で522人(52.0%)、次いで「福山・府中」143人(14.3%)であった。一方、最も低かったのは「備北」29人(2.9%)であった。既卒者の採用が最も多かったのは「広島」で138人(43.1%)、次いで「福山・府中」60人(18.8%)であった。一方、最も低かったのは「広島西」で14人(4.4%)であった。(表10)

表10 保健医療圏域別・新卒者・既卒者別採用状況

(単位：人(%))

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,003 (100.0)	320 (100.0)	4 (0.4)	1 (0.3)	29 (2.9)	10 (3.1)	936 (93.3)	292 (91.3)	34 (3.4)	17 (5.3)
広島	522 (52.0)	138 (43.1)	-	-	12 (1.2)	-	501 (50.0)	132 (41.3)	9 (0.9)	6 (1.9)
広島西	80 (8.0)	14 (4.4)	-	-	2 (0.2)	-	78 (7.8)	14 (4.4)	-	-
呉	138 (13.8)	26 (8.1)	4 (0.4)	1 (0.3)	7 (0.7)	1 (0.3)	124 (12.4)	23 (7.2)	3 (0.3)	1 (0.3)
広島中央	39 (3.9)	37 (11.6)	-	-	2 (0.2)	2 (0.6)	33 (3.3)	33 (10.3)	4 (0.4)	2 (0.6)
尾三	52 (5.2)	29 (9.1)	-	-	-	2 (0.6)	49 (4.9)	26 (8.1)	3 (0.3)	1 (0.3)
福山・府中	143 (14.3)	60 (18.8)	-	-	4 (0.4)	4 (1.3)	124 (12.4)	51 (15.9)	15 (1.5)	5 (1.6)
備北	29 (2.9)	16 (5.0)	-	-	2 (0.2)	1 (0.3)	27 (2.7)	13 (4.1)	-	2 (0.6)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

4 正規・常勤看護職員の状況

1) 正規看護職員の平均年齢（令和5年4月1日現在）

令和5年4月1日現在の平均年齢は41.9歳で、平均年齢が最も低い病院は32.6歳、最も高い病院は54.6歳であった。（表11-①）

平均年齢を保健医療圏域別にみると、「広島」で「35～39歳」が最も多く、「広島西」「呉」「広島中央」「尾三」「福山・府中」で「40～44歳」が最も多く、「備北」で「45～49歳」が最も多かった。（表11-②）

平均年齢を病床規模別にみると、「99床以下」では「45～49歳」が最も多く、「100～199床」では「40～44歳」が最も多く、「200～299床」では「35～39歳」が最も多く、「300～399床」「400～499床」「500床以上」では「35～39歳」が最も多かった。（表11-③）

表11-① 平均年齢（正規）

平均年齢	最も低い	最も高い
41.9歳	32.6歳	54.6歳

注 令和5年4月1日現在の実績

表11-② 平均年齢別・保健医療圏域別 病院数（正規）

（単位：病院（％））

区分	計	広島	広島西	呉	広島中央	尾三	福山・ 府中	備北
計	179 (100.0)	74 (41.3)	9 (5.0)	20 (11.2)	17 (9.5)	16 (8.9)	35 (19.6)	8 (4.5)
～29歳	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
30～34歳	15 (8.4)	5 (2.8)	2 (1.1)	3 (1.7)	1 (0.6)	- -	4 (2.2)	- -
35～39歳	49 (27.4)	33 (18.4)	2 (1.1)	1 (0.6)	2 (1.1)	1 (0.6)	7 (3.9)	3 (1.7)
40～44歳	63 (35.2)	20 (11.2)	3 (1.7)	8 (4.5)	9 (5.0)	11 (6.1)	11 (6.1)	1 (0.6)
45～49歳	43 (24.0)	14 (7.8)	- -	7 (3.9)	4 (2.2)	4 (2.2)	10 (5.6)	4 (2.2)
50～54歳	9 (5.0)	2 (1.1)	2 (1.1)	1 (0.6)	1 (0.6)	- -	3 (1.7)	- -
55歳以上	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

注1 令和5年4月1日現在の実績

注2 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 11-③ 平均年齢別・病床規模別 病院数（正規）（令和 5 年 4 月 1 日現在）

（単位：病院（％））

区分	計	99 床以下	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
計	179 (100.0)	66 (36.9)	63 (35.2)	25 (14.0)	13 (7.3)	5 (2.8)	7 (3.9)
～29 歳	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
30～34 歳	15 (8.4)	3 (1.7)	4 (2.2)	2 (1.1)	1 (0.6)	2 (1.1)	3 (1.7)
35～39 歳	49 (27.4)	9 (5.0)	19 (10.6)	8 (4.5)	6 (3.4)	3 (1.7)	4 (2.2)
40～44 歳	63 (35.2)	24 (13.4)	27 (15.1)	8 (4.5)	4 (2.2)	- -	- -
45～49 歳	43 (24.0)	25 (14.0)	11 (6.1)	5 (2.8)	2 (1.1)	- -	- -
50～54 歳	9 (5.0)	5 (2.8)	2 (1.1)	2 (1.1)	- -	- -	- -
55 歳以上	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

注 1 令和 5 年 4 月 1 日現在の実績

注 2 割合（％）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2) 常勤看護職員の時間外勤務

(1) 時間外勤務時間の平均と最長

令和 6 年 10 月の実績によれば、一人当たり月平均時間外勤務時間は 4.1 時間、最長は 98.2 時間であった。（表 12）

表 12 一人当たり月平均時間外勤務時間（常勤）（令和 6 年 10 月実績）

平均	最長
4.1 時間	98.2 時間

注 令和 6 年 10 月の実績である

(2) 時間外勤務時間数・病床規模別病院数の割合

令和6年10月の実績によれば、病床規模別一人当たり月平均の時間外勤務時間数をみると、最も多かったのは「4時間未満」で113病院(62.8%)、次いで「4～8時間未満」で39病院(21.7%)であった。病床規模別の割合をみると「4時間未満」では「99床以下」、「4～8時間未満」では「99床以下」「100～199床」の割合が高かった。(表13-①)

最長の時間外勤務時間数別病院数をみると、最も多かったのは「20時間以上」で70病院(38.9%)、次いで「4時間未満」で34病院(18.9%)であった。病床規模別の割合をみると「400～499床」「500床以上」ではすべての病院が「20時間以上」であった。(表13-②)

「20時間以上」の内訳をみると、最も多かったのは30～40時間未満で22病院(31.4%)であった。(表13-③)

表13-① 病床規模別一人当たり月平均時間外勤務時間(常勤)(令和6年10月実績)

(単位:病院(%))

区分	計	4時間未満	4～8時間 未満	8～12時間 未満	12～16時間 未満	16～20時間 未満	20時間 以上
計	180 (100.0)	113 (62.8)	39 (21.7)	18 (10.0)	8 (4.4)	1 (0.6)	1 (0.6)
99床以下	66 (36.7)	45 (25.0)	13 (7.2)	3 (1.7)	4 (2.2)	- -	1 (0.6)
100～199床	64 (35.6)	42 (23.3)	13 (7.2)	8 (4.4)	1 (0.6)	- -	- -
200～299床	25 (13.9)	15 (8.3)	4 (2.2)	4 (2.2)	1 (0.6)	1 (0.6)	- -
300～399床	13 (7.2)	9 (5.0)	3 (1.7)	1 (0.6)	- -	- -	- -
400～499床	5 (2.8)	1 (0.6)	3 (1.7)	- -	1 (0.6)	- -	- -
500床以上	7 (3.9)	1 (0.6)	3 (1.7)	2 (1.1)	1 (0.6)	- -	- -

注1 令和6年10月の実績である

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表 13-② 病床規模別一人当たり時間外勤務時間の最長時間数（常勤）（令和 6 年 10 月実績）

（単位：病院（％））

区分	計	4 時間未満	4～8 時間 未満	8～12 時間 未満	12～16 時間 未満	16～20 時間 未満	20 時間 以上
計	180 (100.0)	34 (18.9)	22 (12.2)	21 (11.7)	18 (10.0)	15 (8.3)	70 (38.9)
99 床以下	66 (36.7)	21 (11.7)	11 (6.1)	8 (4.4)	5 (2.8)	4 (2.2)	17 (9.4)
100～199 床	64 (35.6)	8 (4.4)	9 (5.0)	9 (5.0)	8 (4.4)	6 (3.3)	24 (13.3)
200～299 床	25 (13.9)	5 (2.8)	2 (1.1)	2 (1.1)	3 (1.7)	1 (0.6)	12 (6.7)
300～399 床	13 (7.2)	- -	- -	2 (1.1)	2 (1.1)	4 (2.2)	5 (2.8)
400～499 床	5 (2.8)	- -	- -	- -	- -	- -	5 (2.8)
500 床以上	7 (3.9)	- -	- -	- -	- -	- -	7 (3.9)

注 1 令和 6 年 10 月の実績である

注 2 割合（％）の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 13-③ 病床規模別一人当たり時間外勤務時間（最長 20 時間以上）（常勤）（令和 6 年 10 月実績）

（単位：病院（％））

区分	計	20～25 時間 未満	25～30 時間 未満	30～40 時間 未満	40～50 時間 未満	50～60 時間 未満	60 時間 以上
計	70 (100.0)	19 (27.1)	12 (17.1)	22 (31.4)	9 (12.9)	6 (8.6)	2 (2.9)
99 床以下	17 (24.3)	8 (11.4)	4 (5.7)	2 (2.9)	1 (1.4)	2 (2.9)	- -
100～199 床	24 (34.3)	8 (11.4)	3 (4.3)	8 (11.4)	1 (1.4)	2 (2.9)	2 (2.9)
200～299 床	12 (17.1)	2 (2.9)	1 (1.4)	4 (5.7)	4 (5.7)	1 (1.4)	- -
300～399 床	5 (7.1)	- -	- -	3 (4.3)	2 (2.9)	- -	- -
400～499 床	5 (7.1)	- -	3 (4.3)	1 (1.4)	1 (1.4)	- -	- -
500 床以上	7 (10.0)	1 (1.4)	1 (1.4)	4 (5.7)	- -	1 (1.4)	- -

注 1 令和 6 年 10 月の実績である

注 2 割合（％）の合計は四捨五入のため 100%にならない

3) 正規看護職員の年次有給休暇取得状況

(1) 一人平均取得日数

令和5年度の実績によれば年次有給休暇の一人平均取得日数の平均は13.1日、最多が54.6日、最少が5.0日であった。平均で見ると平成27年度まで変動がなかったが、平成28年度から再び増加した。(表14)

表14 年次有給休暇一人平均取得日数の推移(令和5年度実績)

区分	平均	最多	最少
令和5年度	13.1日	54.6日	5.0日
令和4年度	12.2日	20.0日	1.5日
令和3年度	11.4日	21.6日	1.0日
令和2年度	11.0日	24.8日	0.0日
令和元年度	11.2日	23.9日	1.0日
平成30年度	10.4日	19.9日	0.8日
平成29年度	10.2日	20.3日	1.0日
平成28年度	10.1日	24.2日	0.0日
平成27年度	9.9日	20.8日	0.0日
平成26年度	9.9日	26.0日	0.8日
平成25年度	9.9日	41.6日	0.2日

(2) 時間単位の取得

令和5年度の実績によれば年次有給休暇が時間単位で取得できる病院は141病院(79.2%)であった。割合で見ると平成26年度より高くなっている。(表15)

表15 年次有給休暇、時間単位の取得病院数(令和5年度実績)

(単位：病院 (%))

区分	計		できる		できない	
令和5年度	178	(100.0)	141	(79.2)	37	(20.8)
令和4年度	184	(100.0)	150	(81.5)	34	(18.5)
令和3年度	196	(100.0)	155	(79.1)	41	(20.9)
令和2年度	193	(100.0)	152	(78.8)	41	(21.2)
令和元年度	191	(100.0)	150	(78.5)	41	(21.5)
平成30年度	185	(100.0)	144	(77.8)	41	(22.2)
平成29年度	185	(100.0)	143	(77.3)	42	(22.7)
平成28年度	190	(100.0)	144	(75.8)	46	(24.2)
平成27年度	189	(100.0)	136	(72.0)	53	(28.0)
平成26年度	191	(100.0)	88	(46.1)	103	(53.9)
平成25年度	209	(100.0)	96	(45.9)	113	(54.1)

(3) 所定年間休日数

令和5年度の実績によれば所定年間休日数は、「100日未満」の病院は5病院(2.2%)あり、最も多かったのは、「120～130日未満」69病院(29.9%)であった。(表16)

表16 所定年間休日数別 病院数(令和5年度実績)

(単位:病院 (%))

区分	病院数	
計	231	(100.0)
100日未満	5	(2.2)
100～110日未満	55	(23.8)
110～120日未満	49	(21.2)
120～130日未満	69	(29.9)
130日以上	2	(0.9)
無回答	51	(22.1)

5 勤務形態からみた夜勤回数別夜勤人数

1) 常勤看護職員夜勤人数等

令和6年10月の実績によれば、「3交代（変則3交代含む）」で夜勤回数0回は54病院の1,151人、最も多かったのは夜勤回数7回以下で62病院の1,860人であった。「2交代（変則2交代含む）」で夜勤回数0回は108病院の1,959人、最も多かったのは夜勤回数5回で139病院の2,245人であった。（表17-①、表17-②、表17-③）

表17-① 常勤看護職員 勤務形態別夜勤回数（複数回答）（令和6年10月実績）

区分	3交代（変則3交代含む）						2交代（変則2交代含む）				
	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上
病院数 (単位:病院)	54	62	55	51	48	34	108	134	137	139	118
人数 (単位:人)	1,151	1,860	1,647	1,191	546	419	1,959	1,408	1,981	2,245	1,746

注1 常勤看護職員夜勤人数は「新卒含む/夜勤専従者を除く」数字である。

注2 人数は、交代制勤務の指定夜勤回数に該当する看護職員数である。

注3 夜勤回数は令和6年10月実績である。

表17-② 病床規模別常勤看護職員 勤務形態別夜勤回数（複数回答）（令和6年10月実績）

(単位:病院)

区分	3交代（変則3交代含む）						2交代（変則2交代含む）				
	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上
計	54	62	55	51	48	34	108	134	137	139	118
99床以下	10	11	8	7	8	6	33	48	47	51	43
100～199床	17	19	16	15	15	12	46	50	52	52	47
200～299床	11	15	14	14	15	11	13	19	21	20	15
300～399床	6	5	5	5	3	3	10	10	10	10	9
400～499床	5	5	5	4	3	-	2	2	2	1	-
500床以上	5	7	7	6	4	2	4	5	5	5	4

表17-③ 病床規模別常勤看護職員 勤務形態別夜勤人数（複数回答）（令和6年10月実績）

(単位:人)

区分	3交代（変則3交代含む）						2交代（変則2交代含む）				
	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上
計	1,151	1,860	1,647	1,191	546	419	1,959	1,408	1,981	2,245	1,746
99床以下	65	88	57	38	17	37	287	187	363	279	275
100～199床	313	302	146	148	104	108	863	419	492	771	598
200～299床	132	211	156	223	153	84	232	220	336	402	268
300～399床	229	304	433	84	57	20	356	210	235	304	267
400～499床	223	425	441	334	46	-	26	86	63	5	-
500床以上	189	530	414	364	169	170	195	286	492	484	338

2) 夜勤専従者の有無

令和5年度に夜勤専従者がいる病院は78病院(43.1%)、「正規看護職員のみ」が54病院(29.8%)、「正規以外看護職員のみ」が13病院(7.2%)、「正規・正規以外看護職員」が11病院(6.1%)であった。夜勤専従者数は、「実人員」が773人、「延べ人員」が「3交代(変則3交代含む)」は12,696人、「2交代(変則2交代含む)」は23,570人であった。(表18-①, 表18-②)

表18-① 夜勤専従者の有無(令和5年度)

(単位: 病院 (%))

区分	計	夜勤専従者がいる	夜勤専従者がいない
計	181 (100.0)	78 (43.1)	103 (56.9)
正規看護職員のみ	/	54 (29.8)	103 (56.9)
正規以外看護職員のみ		13 (7.2)	
正規・正規以外看護職員		11 (6.1)	

注1 令和5年度の実績である

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表18-② 夜勤専従者の人数(令和5年度)

(単位: 人)

区分	実人員	延べ人員	
		3交代 (変則3交代含む)	2交代 (変則2交代含む)
計	773	12,696	23,570
正規看護職員のみ	486	8,999	16,881
正規以外看護職員のみ	27	129	925
正規・正規以外 看護職員	正規看護職員	236	4,862
	正規以外 看護職員	24	902

注 令和5年度の実績である

6 看護職員の採用状況

令和5年度の正規看護職員の採用状況は次のとおりである。

1) 看護職員採用者数

令和5年度の採用者数は2,402人で、内訳をみると「正規看護職員」が「新卒者」1,035人(43.1%)、「既卒者」1,017人(42.3%)、「正規看護職員以外」は350人(14.6%)であった。(表19)

表19 新卒者・既卒者別・職種別 採用者数 (令和5年度)

(単位：人(%))

区分		計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計		2,402 (100.0)	15 (0.6)	55 (2.3)	2,117 (88.1)	215 (9.0)
正規看護職員	新卒者数	1,035 (43.1)	1 (0.0)	27 (1.1)	960 (40.0)	47 (2.0)
	既卒者数	1,017 (42.3)	8 (0.3)	22 (0.9)	880 (36.6)	107 (4.5)
正規看護職員以外		350 (14.6)	6 (0.2)	6 (0.2)	277 (11.5)	61 (2.5)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 正規看護職員採用者数

(1) 保健医療圏域別採用者数

令和5年度の採用者数は「新卒者」が1,035人、「既卒者」が1,017人で、保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」で「新卒者」534人(51.6%)、「既卒者」459人(45.1%)であった。(表20)

表20 保健医療圏域別・新卒者・既卒者別 正規看護職員採用状況 (令和5年度)

(単位：人(%))

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,035 (100.0)	1,017 (100.0)	1 (0.1)	8 (0.8)	27 (2.6)	22 (2.2)	960 (92.8)	880 (86.5)	47 (4.5)	107 (10.5)
広島	534 (51.6)	459 (45.1)	-	6 (0.6)	13 (1.3)	3 (0.3)	503 (48.6)	417 (41.0)	18 (1.7)	33 (3.2)
広島西	76 (7.3)	51 (5.0)	-	-	1 (0.1)	-	74 (7.1)	45 (4.4)	1 (0.1)	6 (0.6)
呉	136 (13.1)	67 (6.6)	1 (0.1)	2 (0.2)	5 (0.5)	2 (0.2)	123 (11.9)	54 (5.3)	7 (0.7)	9 (0.9)
広島中央	50 (4.8)	103 (10.1)	-	-	2 (0.2)	2 (0.2)	44 (4.3)	90 (8.8)	4 (0.4)	11 (1.1)
尾三	60 (5.8)	107 (10.5)	-	-	-	3 (0.3)	55 (5.3)	88 (8.7)	5 (0.5)	16 (1.6)
福山・府中	153 (14.8)	213 (20.9)	-	-	6 (0.6)	10 (1.0)	135 (13.0)	171 (16.8)	12 (1.2)	32 (3.1)
備北	26 (2.5)	17 (1.7)	-	-	-	2 (0.2)	26 (2.5)	15 (1.5)	-	-

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別採用者数

令和5年度の病床規模別に採用者数をみると、「新卒者」で最も多かったのは「500床以上」で347人(33.5%)、「既卒者」で最も多かったのは「100～199床」で382人(37.6%)であった。(表21)

表21 病床規模別・新卒者・既卒者別 正規看護職員採用状況(令和5年度)

(単位:人(%))

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,035 (100.0)	1,017 (100.0)	1 (0.1)	8 (0.8)	27 (2.6)	22 (2.2)	960 (92.8)	880 (86.5)	47 (4.5)	107 (10.5)
99床以下	61 (5.9)	263 (25.9)	- -	2 (0.2)	1 (0.1)	6 (0.6)	46 (4.4)	224 (22.0)	14 (1.4)	31 (3.0)
100～199床	213 (20.6)	382 (37.6)	- -	6 (0.6)	- -	- -	195 (18.8)	347 (34.1)	18 (1.7)	29 (2.9)
200～299床	144 (13.9)	169 (16.6)	- -	- -	1 (0.1)	3 (0.3)	128 (12.4)	143 (14.1)	15 (1.4)	23 (2.3)
300～399床	127 (12.3)	150 (14.7)	1 (0.1)	- -	6 (0.6)	6 (0.6)	120 (11.6)	120 (11.8)	- -	24 (2.4)
400～499床	143 (13.8)	25 (2.5)	- -	- -	8 (0.8)	4 (0.4)	135 (13.0)	21 (2.1)	- -	- -
500床以上	347 (33.5)	28 (2.8)	- -	- -	11 (1.1)	3 (0.3)	336 (32.5)	25 (2.5)	- -	- -

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 正規以外看護職員採用者数

(1) 保健医療圏域別採用者数

令和5年度の採用者数は350人で、保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」で194人(55.4%)であった。(表22)

表22 保健医療圏域別 正規以外看護職員採用状況(令和5年度)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	350 (100.0)	6 (1.7)	6 (1.7)	277 (79.1)	61 (17.4)
広島	194 (55.4)	4 (1.1)	1 (0.3)	160 (45.7)	29 (8.3)
広島西	13 (3.7)	- -	- -	9 (2.6)	4 (1.1)
呉	23 (6.6)	- -	1 (0.3)	19 (5.4)	3 (0.9)
広島中央	30 (8.6)	1 (0.3)	- -	26 (7.4)	3 (0.9)
尾三	33 (9.4)	1 (0.3)	2 (0.6)	23 (6.6)	7 (2.0)
福山・府中	51 (14.6)	- -	2 (0.6)	34 (9.7)	15 (4.3)
備北	6 (1.7)	- -	- -	6 (1.7)	- -

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別採用者数

令和5年度の病床規模別に採用者数をみると、最も多かったのは「100~199床」で140人(40.0%)であった。(表23)

表23 病床規模別 正規以外看護職員採用状況(令和5年度)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	350 (100.0)	6 (1.7)	6 (1.7)	277 (79.1)	61 (17.4)
99床以下	49 (14.0)	- -	- -	36 (10.3)	13 (3.7)
100~199床	140 (40.0)	4 (1.1)	- -	106 (30.3)	30 (8.6)
200~299床	62 (17.7)	- -	1 (0.3)	53 (15.1)	8 (2.3)
300~399床	37 (10.6)	1 (0.3)	2 (0.6)	24 (6.9)	10 (2.9)
400~499床	18 (5.1)	1 (0.3)	- -	17 (4.9)	- -
500床以上	44 (12.6)	- -	3 (0.9)	41 (11.7)	- -

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

7 看護職員の離職状況

令和5年度の正規看護職員の離職状況は次のとおりである。

1) 正規看護職員離職者数

令和5年度の正規看護職員の離職者数は1,997人、内訳をみると定年退職者は150人(7.5%)、新卒離職者は107人(5.4%)であった。定年退職・新卒離職者以外は1,740人(87.1%)であった。(表24)

表24 正規看護職員離職者数(令和5年度)

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
離職者数	1,997 (100.0)	6 (0.3)	37 (1.9)	1,764 (88.3)	190 (9.5)
(1) 定年退職者数 (定年退職者の割合)	150 (7.5)	- -	2 (0.1)	119 (6.0)	29 (1.5)
(2) 新卒離職者数 (新卒離職者の割合)	107 (5.4)	- -	1 (0.1)	91 (4.6)	15 (0.8)
(3) (1), (2)以外離職者数 ((1), (2)以外離職者の割合)	1,740 (87.1)	6 (0.3)	34 (1.7)	1,554 (77.8)	146 (7.3)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(1) 保健医療圏域別・職種別離職者数・離職率

令和5年度の離職者数は1,997人で、離職率は9.7%であった。保健医療圏域別にみると、離職者数が最も多かったのは「広島」948人、離職率が最も高かったのは「呉」10.7%であった。(表25)

表25 保健医療圏域別・職種別 正規看護職員離職者数・離職率(令和5年度)

(単位：人(%))

区分	計(離職率)		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	1,997	(9.7)	6	37	1,764	190
広島	948	(9.9)	3	15	857	73
広島西	126	(9.8)	-	4	114	8
呉	227	(10.7)	1	4	203	19
広島中央	159	(10.0)	-	-	142	17
尾三	147	(7.6)	2	1	126	18
福山・府中	331	(9.7)	-	10	271	50
備北	59	(8.6)	-	3	51	5

注 離職者数は定年退職者を含む

(2) 病床規模別・職種別離職者数・離職率

令和5年度の病床規模別にみると、離職者数が最も多かったのは「100～199床」607人であった。離職率が最も高かったのは「99床以下」「100～199床」で12.3%であった。(表26)

表26 病床規模別・職種別 正規看護職員離職者数・離職率(令和5年度)

(単位：人(%))

区分	計(離職率)		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	1,997	(9.7)	6	37	1,764	190
99床以下	276	(12.3)	-	5	224	47
100～199床	607	(12.3)	3	1	537	66
200～299床	303	(8.8)	-	1	261	41
300～399床	278	(9.3)	3	10	234	31
400～499床	158	(8.1)	-	1	153	4
500床以上	375	(7.5)	-	19	355	1

注 離職者数は定年退職者を含む

2) 定年退職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別定年退職者数

令和5年度の定年退職者数は150人で、保健医療圏別にみると、最も多かったのは「広島」50人(33.3%)、うち43人が「看護師」であった。(表27)

表27 保健医療圏域別・職種別 正規看護職員定年退職者数(令和5年度)

(単位：人(%))

区分	計		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	150	(100.0)	-	2	119	29
広島	50	(33.3)	-	1	43	6
広島西	6	(4.0)	-	-	6	-
呉	17	(11.3)	-	-	16	1
広島中央	25	(16.7)	-	-	19	6
尾三	13	(8.7)	-	-	10	3
福山・府中	31	(20.7)	-	-	21	10
備北	8	(5.3)	-	1	4	3

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別定年退職者数

令和5年度の病床規模別定年退職者数をみると、最も多かったのは「100～199床」で37人(24.7%)、次いで「99床以下」「200～299床」27人(18.0%)であった。(表28)

表28 病床規模別・職種別 正規看護職員定年退職者数(令和5年度)

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	150 (100.0)	-	2	119	29
99床以下	27 (18.0)	-	-	19	8
100～199床	37 (24.7)	-	1	26	10
200～299床	27 (18.0)	-	-	19	8
300～399床	26 (17.3)	-	1	22	3
400～499床	14 (9.3)	-	-	14	-
500床以上	19 (12.7)	-	-	19	-

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 新卒看護職員の離職者数・離職率

令和5年度の新卒看護職員の離職者数は107人、離職率は10.3%であった。保健医療圏域別にみると、離職率が最も高かったのは「尾三」で13.3%であった。最も低かったのは「備北」で0%であった。(表29-①)

病床規模別にみると、離職率が最も高かったのは「100～199床」で20.2%であった。最も低かったのは「500床以上」で3.7%であった。(表29-②)

表29-① 保健医療圏域別 正規看護職員新卒離職者数・離職率(令和5年度)

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	広島	広島西	呉	広島 中央	尾三	福山・ 府中	備北
新卒採用者数	1,035	534	76	136	50	60	153	26
新卒離職者数	107	61	4	11	6	8	17	0
離職率(%)	(10.3)	(11.4)	(5.3)	(8.1)	(12.0)	(13.3)	(11.1)	(0.0)

表29-② 病床規模別・職種別 正規看護職員新卒離職者数・離職率(令和5年度)

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	99床 以下	100～ 199床	200～ 299床	300～ 399床	400～ 499床	500床 以上
新卒採用者数	1,035	61	213	144	127	143	347
新卒離職者数	107	8	43	22	13	8	13
離職率(%)	(10.3)	(13.1)	(20.2)	(15.3)	(10.2)	(5.6)	(3.7)

4) 定年退職及び新卒離職以外の離職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別定年退職・新卒離職以外の離職者数

令和5年度の保健医療圏域別離職者数をみると、最も多かったのは「広島」837人(48.1%)、うち762人が「看護師」であった。(表30)

表30 保健医療圏域別・職種別 定年退職・新卒離職以外の離職者数(令和5年度)
(単位：人(%))

区分	計		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	1,740	(100.0)	6	34	1,554	146
広島	837	(48.1)	3	14	762	58
広島西	116	(6.7)	-	4	105	7
呉	199	(11.4)	1	4	176	18
広島中央	128	(7.4)	-	-	117	11
尾三	126	(7.2)	2	1	108	15
福山・府中	283	(16.3)	-	9	239	35
備北	51	(2.9)	-	2	47	2

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別定年退職・新卒離職以外の離職者数

令和5年度の病床規模別離職者数をみると、最も多かったのは「100～199床」527人(30.3%)、うち478人が「看護師」であった。次いで「500床以上」343人(19.7%)、うち323人が「看護師」であった。(表31)

表31 病床規模別・職種別 定年退職・新卒離職以外の離職者数(令和5年度)
(単位：人(%))

区分	計		保健師	助産師	看護師	准看護師
計	1,740	(100.0)	6	34	1,554	146
99床以下	241	(13.9)	-	5	201	35
100～199床	527	(30.3)	3	-	478	46
200～299床	254	(14.6)	-	1	221	32
300～399床	239	(13.7)	3	8	200	28
400～499床	136	(7.8)	-	1	131	4
500床以上	343	(19.7)	-	19	323	1

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

5) 正規以外看護職員離職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別離職者数・離職率

令和5年度の「離職者数は346人で、離職率は15.2%であった。保健医療圏域別にみると、離職者数が最も多かったのは「広島」で182人、離職率が最も高かったのも「広島」で18.2%であった。(表32)

表32 保健医療圏域別・職種別 正規以外看護職員離職者数・離職率(令和5年度)

(単位：人(%))

区分	計(離職率)	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	346 (15.2)	3	7	258	78
広島	182 (18.2)	1	3	141	37
広島西	12 (10.2)	-	-	8	4
呉	37 (14.2)	1	1	28	7
広島中央	25 (13.9)	1	-	19	5
尾三	36 (15.0)	-	1	21	14
福山・府中	43 (11.7)	-	1	32	10
備北	11 (10.2)	-	1	9	1

注 離職者数は契約期間満了退職者を含む

(2) 病床規模別・職種別離職者数・離職率

令和5年度の病床規模別にみると、離職者数が最も多かったのは「100～199床」で144人であった。離職率が最も高かったのも「100～199床」で18.4%であった。(表33)

表33 病床規模別・職種別 正規以外看護職員離職者数・離職率(令和5年度)

(単位：人(%))

区分	計(離職率)	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	346 (15.2)	3	7	258	78
99床以下	48 (12.4)	1	2	23	22
100～199床	144 (18.4)	1	-	104	39
200～299床	62 (14.3)	-	2	50	10
300～399床	42 (17.8)	-	1	34	7
400～499床	21 (14.4)	1	1	19	-
500床以上	29 (10.0)	-	1	28	-

注 離職者数は契約期間満了退職者を含む

8 特別休暇等の取得状況

令和5年度の正規看護職員の特別休暇等取得状況は次のとおりである。

1) 育児休業取得職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別育児休業取得職員数

令和6年3月31日現在の実績によれば育児休業取得職員数は1,359人(6.6%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」714人、うち684人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」222人、うち204人が「看護師」であった。(表34)

表34 保健医療圏域別・職種別 育児休業取得職員数(実人員)(令和6年3月31日現在の実績)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	20,598.0 (100.0)	77.5 (0.4)	442.5 (2.1)	18,714.0 (90.9)	1,364.0 (6.6)
計	1,359 (6.6)	7 (0.0)	38 (0.2)	1,289 (6.3)	25 (0.1)
広島	714 (3.5)	2	17	684	11
広島西	115 (0.6)	-	2	112	1
呉	104 (0.5)	1	2	98	3
広島中央	93 (0.5)	-	3	87	3
尾三	78 (0.4)	1	2	75	-
福山・府中	222 (1.1)	2	9	204	7
備北	33 (0.2)	1	3	29	-

注1 令和6年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別育児休業取得職員数

令和6年3月31日現在の実績によれば病床規模別の育児休業取得職員数をみると、最も多かったのは「500床以上」477人、うち462人が「看護師」であった。次いで「100~199床」264人、うち249人が「看護師」であった。

(表35)

表35 病床規模別・職種別 育児休業取得職員数(実人員)(令和6年3月31日現在の実績)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	20,598.0 (100.0)	77.5 (0.4)	442.5 (2.1)	18,714.0 (90.9)	1,364.0 (6.6)
計	1,359 (6.6)	7 (0.0)	38 (0.2)	1,289 (6.3)	25 (0.1)
99床以下	118 (0.6)	-	1	111	6
100~199床	264 (1.3)	2	-	249	13
200~299床	184 (0.9)	2	7	170	5
300~399床	178 (0.9)	3	9	165	1
400~499床	138 (0.7)	-	6	132	-
500床以上	477 (2.3)	-	15	462	-

注1 令和6年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 介護休業取得職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別介護休業取得職員数

令和6年3月31日現在の実績によれば介護休業取得職員数は10人(0.0%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」6人で、うちすべてが「看護師」であった。(表36)

表36 保健医療圏域別・職種別 介護休業取得職員数(実人員)(令和6年3月31日現在の実績)
(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	20,598.0 (100.0)	77.5 (0.4)	442.5 (2.1)	18,714.0 (90.9)	1,364.0 (6.6)
計	10 (0.0)	- -	- -	10 (0.0)	- -
広島	6 (0.0)	- -	- -	6	- -
広島西	- -	- -	- -	- -	- -
呉	1 (0.0)	- -	- -	1	- -
広島中央	- -	- -	- -	- -	- -
尾三	1 (0.0)	- -	- -	1	- -
福山・府中	2 (0.0)	- -	- -	2	- -
備北	- -	- -	- -	- -	- -

注1 令和6年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別介護休業取得職員数

令和6年3月31日現在の実績によれば病床規模別の介護休業取得職員数をみると、最も多かったのは「500床」6人で、うちすべてが「看護師」であった。(表37)

表37 病床規模別・職種別 介護休業取得職員数(実人員)(令和6年3月31日現在の実績)
(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	20,598.0 (100.0)	77.5 (0.4)	442.5 (2.1)	18,714.0 (90.9)	1,364.0 (6.6)
計	10 (0.0)	- -	- -	10 (0.0)	- -
99床以下	- -	- -	- -	- -	- -
100~199床	2 (0.0)	- -	- -	2	- -
200~299床	- -	- -	- -	- -	- -
300~399床	1 (0.0)	- -	- -	1	- -
400~499床	1 (0.0)	- -	- -	1	- -
500床以上	6 (0.0)	- -	- -	6	- -

注1 令和6年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 時間短縮勤務職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別時間短縮勤務職員数

令和6年3月31日現在の実績によれば時間短縮勤務職員数は1,067人(5.2%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」596人、うち567人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」180人、うち174人が「看護師」であった。(表38)

表38 保健医療圏域別・職種別 時間短縮勤務中の職員数(実人員)(令和6年3月31日現在の実績)
(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	20,598.0 (100.0)	77.5 (0.4)	442.5 (2.1)	18,714.0 (90.9)	1,364.0 (6.6)
計	1,067 (5.2)	5 (0.0)	25 (0.1)	1,017 (4.9)	20 (0.1)
広島	596 (2.9)	3	18	567	8
広島西	69 (0.3)	-	1	67	1
呉	78 (0.4)	2	-	73	3
広島中央	35 (0.2)	-	-	33	2
尾三	83 (0.4)	-	-	80	3
福山・府中	180 (0.9)	-	4	174	2
備北	26 (0.1)	-	2	23	1

注1 令和6年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別時間短縮勤務職員数

令和6年3月31日現在の実績によれば病床規模別に時間短縮勤務職員数をみると、最も多かったのは「500床以上」397人、うち388人が「看護師」であった。次いで「200~299床」182人、うち174人が「看護師」であった。(表39)

表39 病床規模別・職種別 時間短縮勤務中の職員数(実人員)(令和6年3月31日現在の実績)
(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	20,598.0 (100.0)	77.5 (0.4)	442.5 (2.1)	18,714.0 (90.9)	1,364.0 (6.6)
計	1,067 (5.2)	5 (0.0)	25 (0.1)	1,017 (4.9)	20 (0.1)
99床以下	88 (0.4)	-	1	81	6
100~199床	175 (0.8)	1	-	164	10
200~299床	182 (0.9)	2	2	174	4
300~399床	102 (0.5)	2	4	96	-
400~499床	123 (0.6)	-	9	114	-
500床以上	397 (1.9)	-	9	388	-

注1 令和6年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

4) 病休・休職等職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別病休・休職等職員数

令和5年度の病休・休職等職員数は642人(3.1%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」283人、うち267人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」131人、うち118人が「看護師」であった。(表40)

表40 保健医療圏域別・職種別 病休・休職等職員数(実人員)(令和5年度)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規 看護職員数	20,598.0 (100.0)	77.5 (0.4)	442.5 (2.1)	18,714.0 (90.9)	1,364.0 (6.6)
計	642 (3.1)	-	12 (0.1)	599 (2.9)	31 (0.2)
広島	283 (1.4)	-	4	267	12
広島西	28 (0.1)	-	-	27	1
呉	32 (0.2)	-	-	29	3
広島中央	56 (0.3)	-	2	53	1
尾三	56 (0.3)	-	-	52	4
福山・府中	131 (0.6)	-	6	118	7
備北	56 (0.3)	-	-	53	3

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別病休・休職等職員数

令和5年度の病床規模別の病休・休職等職員数をみると、最も多かったのは「500床以上」172人、うち167人が「看護師」であった。次いで「100~199床」123人、うち112人が「看護師」であった。(表41)

表41 病床規模別・職種別 病休・休職等職員数(実人員)(令和5年度)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規 看護職員数	20,598.0 (100.0)	77.5 (0.4)	442.5 (2.1)	18,714.0 (90.9)	1,364.0 (6.6)
計	642 (3.1)	-	12 (0.1)	599 (2.9)	31 (0.2)
99床以下	62 (0.3)	-	1	50	11
100~199床	123 (0.6)	-	-	112	11
200~299床	100 (0.5)	-	-	94	6
300~399床	99 (0.5)	-	4	93	2
400~499床	86 (0.4)	-	2	83	1
500床以上	172 (0.8)	-	5	167	-

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

9 母性保護、育児・介護休業に関する制度について

1) 制度の導入・利用について

(1) 母性保護制度の導入・利用の有無

令和5年度に母性保護制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は154病院(85.6%)であった。「はい」と回答した病院のうち、最も多く導入されている制度は「夜勤・当直免除」で、144病院であった。最も多く利用があった制度も「夜勤・当直免除」で、124病院であった。(表42)

表42 母性保護制度の導入の有無(令和5年度)
(単位:病院(%))

区分	病院数	
計	180	(100.0)
※はい	154	(85.6)
いいえ	26	(14.4)

※「はい」の内容(複数回答)

制 度	導入がある	利用がある
夜勤・当直免除	144	124
夜勤・当直日数減	138	120
超過勤務免除	114	77
変形労働時間の適用除外	80	51
時差通勤	73	35
つわり休暇	49	28
通院休暇(保健指導・検診受診時間の確保等)	93	51
配置転換	116	54
「その他導入している制度の具体的内容」 ・生理休暇 ・妊娠中の通勤方法の変更 ・妊産婦の危険有害業務の就業制限、業務軽減 ・妊娠中の休息、補食 ・妊娠中の通勤緩和、保育時間 ・本人の希望により、柔軟に対応		

(2) 育児休業制度の導入・利用の有無

令和5年度に育児休業制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は180病院(100%)であった。最も多く導入されている制度は「育児休業」で、180病院であった。最も多く利用があった制度も「育児休業」で、167病院であった。(表43)

表43 育児休業制度の導入の有無(令和5年度)
(単位:病院(%))

区分	病院数	
計	180	(100.0)
※はい	180	(100.0)
いいえ	-	-

※「はい」の内容(複数回答)

制 度	導入がある	利用がある
育児休業	180	167
子の看護休暇	162	134
所定外労働の制限	135	97
時間外労働制限	139	98
深夜業の制限	154	123
短時間勤務	170	144
フレックスタイム制	24	11
始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	91	69
託児施設の設置運営	84	79
「その他導入している制度の具体的内容」 ・ 託児施設(グループ病院のものも利用可能) ・ 託児所の夜間保育あり ・ 短時間勤務あり、時間帯も選択可能 ・ 夜勤は本人の希望する回数にしている ・ 出生児育児休業 職員の妻が出産する場合の休暇 ・ 男性職員の育児参加のための休暇 ・ 育児を行う職員の早出遅出勤あり		

(3) 介護休業制度の導入・利用の有無

令和5年度に介護休業制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は174病院(96.7%)であった。「はい」と回答した病院のうち、最も多く導入されている制度は「介護休暇」で169病院であった。最も多く利用があった制度も「介護休暇」で93病院であった。(表44)

表44 介護休業制度の導入の有無(令和5年度)
(単位:病院(%))

区分	病院数	
計	180	(100.0)
※はい	174	(96.7)
いいえ	6	(3.3)

※「はい」の内容(複数回答)

制 度	導入がある	利用がある
介護休業	167	77
介護休暇	169	93
時間外労働の制限	122	34
深夜業の制限	125	44
短時間勤務	126	41
フレックスタイム制	21	6
始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	69	23
介護サービス費用の助成	10	2
「その他導入している制度の具体的内容」 ・始業、終業時間の繰上げ、繰下げ ・家族介護を行う職員の早出遅出勤務 ・家族介護を行う職員の所定時間外勤務の免除 ・同法人を利用すると、医療費補助あり(本人全額、家族1割)		

10 研修体制やキャリアアップに関する支援

1) 教育研修体制

令和6年度の「継続教育研修プログラム」が「あり」は136病院(75.6%)であった。病床規模別にみると「400～499床」「500床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表45-①)

「看護部門における教育研修責任者の配置」が「あり」は153病院(85.0%)であった。病床規模別にみると「300～399」「400～499床」「500床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表45-②)

「病棟・外来などでの教育担当者の配置」が「あり」は152病院(85.4%)であった。病床規模別にみると「400～499床」「500床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表45-③)

「新規採用者の教育研修計画」を対象者別にみると「新卒採用者」で「あり」は152病院(84.4%)、うち「厚労省のガイドラインに沿った研修体制」が「あり」は120病院(66.7%)であった。「既卒採用者」で「あり」は142病院(78.9%)、「看護補助者」で「あり」は140病院(77.8%)であった。病床規模別にみると「新卒採用者」で「400～499床」「500床以上」ではすべての病院が「あり」、 「既卒採用者」で「400～499床」ではすべての病院が「あり」、 「看護補助者」で「400～499床」「500床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表45-④)

表45-① 病床規模別継続教育研修プログラム(令和6年度)

(単位：病院(%))

区分	計	あり	なし
計	180 (100.0)	136 (75.6)	44 (24.4)
99床以下	66 (36.7)	34	32
100～199床	64 (35.6)	57	7
200～299床	25 (13.9)	23	2
300～399床	13 (7.2)	10	3
400～499床	5 (2.8)	5	-
500床以上	7 (3.9)	7	-

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表45-② 病床規模別看護部門における教育研修責任者の配置(令和6年度)

(単位：病院(%))

区分	計	あり			なし
		計	専従	兼任	
計	180 (100.0)	153 (85.0)	17 (9.4)	136 (75.6)	27 (15.0)
99床以下	66 (36.7)	47	-	47	19
100～199床	64 (35.6)	57	4	53	7
200～299床	25 (13.9)	24	3	21	1
300～399床	13 (7.2)	13	2	11	-
400～499床	5 (2.8)	5	3	2	-
500床以上	7 (3.9)	7	5	2	-

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表 45-③ 病床規模別病棟・外来などでの教育担当者の配置(令和6年度)

(単位：病院(%))

区分	計	あり			なし
		計	専従	兼任	
計	178 (100.0)	152 (85.4)	- -	152 (85.4)	26 (14.6)
99床以下	64 (36.0)	50	-	50	14
100～199床	64 (36.0)	54	-	54	10
200～299床	25 (14.0)	24	-	24	1
300～399床	13 (7.3)	12	-	12	1
400～499床	5 (2.8)	5	-	5	-
500床以上	7 (3.9)	7	-	7	-

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表 45-④ 病床規模別新規採用者の教育研修計画(令和6年度)

(単位：病院(%))

区分	計	新卒採用者			既卒採用者			看護補助者					
		あり		なし	なし	あり	なし	新規採用者の 教育研修計画		研修プログラム			
		計	厚労省の ガイドラインに沿った 研修体制					あり	なし	あり	なし	あり	なし
計	180 (100.0)	152 (84.4)	120 (66.7)	32 (17.8)	28 (15.6)	142 (78.9)	37 (20.6)	140 (77.8)	40 (22.2)	136 (75.6)	39 (21.7)		
99床以下	66 (36.7)	44	28	16	22	46	19	42	24	36	26		
100～199床	64 (35.6)	60	47	13	4	53	11	52	12	56	8		
200～299床	25 (13.9)	25	23	2	-	22	3	23	2	23	2		
300～399床	13 (7.2)	11	10	1	2	11	2	11	2	11	2		
400～499床	5 (2.8)	5	5	-	-	5	-	5	-	4	-		
500床以上	7 (3.9)	7	7	-	-	5	2	7	-	6	1		

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) キャリアアップのための支援

(1) 進学支援の有無

令和6年度に「大学、大学院等」への進学支援が「あり」は69病院(38.1%)であった。「看護師養成所(通信制含む)」への進学支援が「あり」は124病院(68.5%)であった。

「あり」の内容をみると、「大学、大学院等」、「看護師養成所(通信制含む)」ともに「勤務調整」が最も多かった。次いで「看護師養成所(通信制含む)」では「奨学金制度」が多かった。(表46)

表 46 進学支援の有無(令和6年度)

(単位：病院(%))

区分	計	※あり	なし
大学、大学院等	181 (100.0)	69 (38.1)	112 (61.9)
看護師養成所 (通信制含む)	181 (100.0)	124 (68.5)	57 (31.5)

※「あり」の内容(複数回答)

区分	奨学金 制度	休職制度	勤務調整	代替職員 の配置	旅費の 援助	授業料の 援助
大学、大学院等	26	24	50	3	7	5
看護師養成所 (通信制含む)	67	27	96	6	10	15

(2) 資格取得の支援の有無

令和6年度に「看護管理者資格取得」の支援が「あり」は135病院(74.6%)、「専門看護師資格取得」の支援が「あり」は72病院(39.8%)、「認定看護師資格取得」の支援が「あり」は112病院(61.9%)、「特定行為研修」の支援が「あり」は82病院(45.3%)「国内外留学」の支援が「あり」は26病院(14.4%)であった。

「あり」の内容をみると、各資格取得では「勤務調整」が最も多かった。次いで「授業料の援助」、「旅費の援助」の支援が多かった。(表47)

表 47 資格取得の支援の有無(令和6年度)

(単位：病院(%))

区分	計	※あり	なし
看護管理者	181 (100.0)	135 (74.6)	46 (25.4)
専門看護師	181 (100.0)	72 (39.8)	109 (60.2)
認定看護師	181 (100.0)	112 (61.9)	69 (38.1)
特定行為研修	181 (100.0)	82 (45.3)	99 (54.7)
国内外留学	181 (100.0)	26 (14.4)	155 (85.6)

※「あり」の内容(複数回答)

区分	奨学金 制度	休職制度	勤務調整	代替職員 の配置	旅費の 援助	授業料の 援助
看護管理者	6	8	121	3	75	97
専門看護師	11	19	61	5	26	36
認定看護師	21	29	101	13	71	81
特定行為研修	13	15	72	9	52	61
国内外留学	4	11	18	1	4	2

1.1 働きやすい職場づくりのための取り組み

1) 働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

働きやすい職場づくりを進めていく上での問題について最も多かったのは「代替職員の確保」123 病院(24.7%)、次いで「業務が忙しく取り組む余裕がない」65 病院(13.1%)であった。順位 1, 2 では「代替職員の確保」が最も多く、順位 3 では「業務効率の悪化」が最も多かった。(表 48)

表 48 働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

(単位：病院 (%))

区分	計	順位 1	順位 2	順位 3
計	498 (100.0)	179 (100.0)	167 (100.0)	152 (100.0)
進め方がわからない	10 (2.0)	2 (1.1)	3 (1.8)	5 (3.3)
相談先がわからない	4 (0.8)	1 (0.6)	3 (1.8)	- -
効果が不透明	22 (4.4)	6 (3.4)	7 (4.2)	9 (5.9)
代替職員の確保	123 (24.7)	78 (43.6)	34 (20.4)	11 (7.2)
制度を利用していない職員との不公平感	63 (12.7)	16 (8.9)	28 (16.8)	19 (12.5)
保育サービスの不足	36 (7.2)	10 (5.6)	11 (6.6)	15 (9.9)
職員が制度を利用しない	5 (1.0)	- -	4 (2.4)	1 (0.7)
業務が忙しく取り組む余裕がない	65 (13.1)	19 (10.6)	24 (14.4)	22 (14.5)
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	4 (0.8)	1 (0.6)	2 (1.2)	1 (0.7)
コストの増加	50 (10.0)	13 (7.3)	18 (10.8)	19 (12.5)
業務効率の悪化	54 (10.8)	5 (2.8)	19 (11.4)	30 (19.7)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	20 (4.0)	6 (3.4)	7 (4.2)	7 (4.6)
院長等トップの理解がない	19 (3.8)	8 (4.5)	6 (3.6)	5 (3.3)
特に問題はない	8 (1.6)	6 (3.4)	- -	2 (1.3)
その他	15 (3.0)	8 (4.5)	1 (0.6)	6 (3.9)
<p>「その他」の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療DXに取り組むコストがかかりすぎる ・ 職種間での業務量の違い ・ 人間関係(一部) ・ 事務作業が多い ・ 院内システムが変わらない ・ 夜勤ができる人が減少、日祝勤務できる人が少ない ・ 時短の人が時間内に帰れない ・ 施設のルールを自由に決められない(本部、労使関連) ・ 他職種との連携 ・ 看護補助者確保 ・ 人員不足、人材確保 				

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

(1) 保健医療圏域別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

働きやすい職場づくりを進めていく上での問題を保健医療圏域別にみると、「広島」「広島西」「呉」「広島中央」「尾三」「福山・府中」「備北」のすべてが「代替職員の確保」が最も多かったが「備北」では「業務が忙しく取り組む余裕がない」も多かった。(表 49)

表 49 保健医療圏域別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

(単位：病院 (%))

区分	計	広島	広島西	呉	広島中央	尾三	福山・府中	備北
計	498 (100.0)	209 (100.0)	27 (100.0)	56 (100.0)	45 (100.0)	45 (100.0)	94 (100.0)	22 (100.0)
進め方がわからない	10 (2.0)	4 (1.9)	- -	- -	- -	1 (2.2)	3 (3.2)	2 (9.1)
相談先がわからない	4 (0.8)	- -	- -	1 (1.8)	- -	- -	3 (3.2)	- -
効果が不透明	22 (4.4)	4 (1.9)	2 (7.4)	4 (7.1)	5 (11.1)	2 (4.4)	5 (5.3)	- -
代替職員の確保	123 (24.7)	51 (24.4)	8 (29.6)	12 (21.4)	11 (24.4)	15 (33.3)	20 (21.3)	6 (27.3)
制度を利用していない職員との不公平感	63 (12.7)	31 (14.8)	3 (11.1)	5 (8.9)	4 (8.9)	8 (17.8)	11 (11.7)	1 (4.5)
保育サービスの不足	36 (7.2)	14 (6.7)	3 (11.1)	4 (7.1)	4 (8.9)	1 (2.2)	9 (9.6)	1 (4.5)
職員が制度を利用しない	5 (1.0)	3 (1.4)	- -	- -	1 (2.2)	1 (2.2)	- -	- -
業務が忙しく取り組む余裕がない	65 (13.1)	22 (10.5)	4 (14.8)	9 (16.1)	5 (11.1)	4 (8.9)	14 (14.9)	7 (31.8)
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	4 (0.8)	2 (1.0)	1 (3.7)	- -	- -	- -	1 (1.1)	- -
コストの増加	50 (10.0)	26 (12.4)	2 (7.4)	6 (10.7)	3 (6.7)	6 (13.3)	7 (7.4)	- -
業務効率の悪化	54 (10.8)	22 (10.5)	2 (7.4)	6 (10.7)	7 (15.6)	5 (11.1)	10 (10.6)	2 (9.1)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	20 (4.0)	7 (3.3)	1 (3.7)	5 (8.9)	2 (4.4)	- -	4 (4.3)	1 (4.5)
院長等トップの理解がない	19 (3.8)	13 (6.2)	1 (3.7)	2 (3.6)	- -	- -	2 (2.1)	1 (4.5)
特に問題はない	8 (1.6)	2 (1.0)	- -	1 (1.8)	2 (4.4)	- -	2 (2.1)	1 (4.5)
その他	15 (3.0)	8 (3.8)	- -	1 (1.8)	1 (2.2)	2 (4.4)	3 (3.2)	- -

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

病床規模別にみると、「99床以下」「100～199床」「200～299床」では「代替職員の確保」が最も多く、「400～499床」では「代替え職員の確保」「制度を利用していない職員との不公平感」が多く、「500床以上」では「制度を利用していない職員との不公平感」が最も多かった。(表50)

表50 病床規模別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

(単位：病院(%))

区分	計	99床以下	100～199床	200～299床	300～399床	400～499床	500床以上
計	498 (97.0)	188 (97.9)	172 (97.1)	71 (94.4)	31 (100.0)	15 (93.3)	21 (95.2)
進め方がわからない	10 (2.0)	7 (3.7)	3 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
相談先がわからない	4 (0.8)	3 (1.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
効果が不透明	22 (4.4)	12 (6.4)	6 (3.5)	3 (4.2)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)
代替職員の確保	123 (24.7)	37 (19.7)	48 (27.9)	22 (31.0)	7 (22.6)	4 (26.7)	5 (23.8)
制度を利用していない職員との不公平感	63 (12.7)	18 (9.6)	18 (10.5)	11 (15.5)	6 (19.4)	4 (26.7)	6 (28.6)
保育サービスの不足	36 (7.2)	7 (3.7)	20 (11.6)	4 (5.6)	0 (0.0)	2 (13.3)	3 (14.3)
職員が制度を利用しない	5 (1.0)	1 (0.5)	3 (1.7)	1 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
業務が忙しく取り組む余裕がない	65 (13.1)	31 (16.5)	20 (11.6)	7 (9.9)	5 (16.1)	0 (0.0)	2 (9.5)
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	4 (0.8)	2 (1.1)	0 (0.0)	1 (1.4)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)
コストの増加	50 (10.0)	18 (9.6)	17 (9.9)	8 (11.3)	4 (12.9)	1 (6.7)	2 (9.5)
業務効率の悪化	54 (10.8)	20 (10.6)	18 (10.5)	7 (9.9)	4 (12.9)	3 (20.0)	2 (9.5)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	20 (4.0)	14 (7.4)	3 (1.7)	2 (2.8)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)
院長等トップの理解がない	19 (3.8)	10 (5.3)	8 (4.7)	0 (0.0)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)
特に問題はない	8 (1.6)	4 (2.1)	2 (1.2)	1 (1.4)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	15 (3.0)	4 (2.1)	5 (2.9)	4 (5.6)	0 (0.0)	1 (6.7)	1 (4.8)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 制度の導入・利用について

看護職員の意見・要望を聞く取組みをしているかについて「取組んでいる」は129病院(71.7%)、「特に取組みはしていないが、随時聞いている」は48病院(26.7%)であった。

「取組んでいる」と回答した病院のうち、最も多く取組まれている制度は「上司との個別面接」で、頻度は「年1回以上」が最も多かった。(表51)

表51 働きやすい職場づくりのための取組み

(単位：病院(%))

区分	病院数	
計	180	(100.0)
※取組んでいる	129	(71.7)
特に取組みはしていないが、随時聞いている	48	(26.7)
取組んでいない	3	(1.7)

※「取組んでいる」の内容(複数回答)

(単位：病院)

区分	年1回以上	2～3年に1回	※その他 (()内は内容)
計	164	33	6
上司との個別面接	101	20	3
アンケート(満足度調査等)	63	13	3
意見箱の設置	61		
※その他(具体的内容を記入)	26		
「その他導入している制度の具体的内容」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人本部の弁護士による相談窓口(T E L or メール)がある ・ 院内ラウンド ・ グーグルフォームを利用して職員に意見をもらう。 ・ 職員相談窓口の設置と周知 ・ 自己申告書提出(1回/年) ・ 管理職以外の職員への聞き取りを随時行っている ・ 委員会等を通じて提案 ・ 看護部長による意見交換会の実施 ・ 他部署とのチューター指名による面談を行っている ・ 広島県版自己点検ツールチャレンジの活用 ・ 職場ラウンド1回/月 ・ 法人全体でハラスメント、魅力ある職場づくりのための自己点検、アンケートを行った ・ 働きやすい職場づくりを考える会、1回/月開催 			

III 参考資料

(資料1) 令和6年度 広島県看護職員の職場環境づくり実態調査票

令和6年度 広島県看護職員の職場環境づくり実態調査票

保健師、助産師、看護師及び准看護師(以下「看護職員」という。)並びに看護補助者の確保定着のための

の

<記入上の注意>

- 該当項目の枠内に○印又は数字を記入し、()には必要事項をご記入ください。
- 小数点第1位まで記入が必要な項目については、小数点第2位を四捨五入して回答してください。
- 0人の場合は「0」をご記入ください。数字をとっていない場合は「-」をご記入ください。
- 「注」の表示がある項目については、別紙「注意事項」を参照してください。

(ふりがな)

【記入者】職 位 氏 名

問1 病院の概要についてお答えください。【令和6年4月1日現在】

No.

①施設名 ②所在地 ③電話番号 ④病院設置主体 をご記入ください。
訂正箇所があれば、右側に赤字で訂正をお願いします。

- ①
②
③
④

⑤ 稼働病床数をご記入ください。 _____ 床

問2 令和6年度看護職員数及び看護補助者数を従事している職種別にお答えください。注1

区分	看護職員					看護補助者
	保健師	助産師	看護師	准看護師	計	
注2 正規	①職員数(実人員)【令和6年4月1日現在】 ()内は男性の人数を再掲					
	()	()	()	()	()	()
	換算数(小数点第1位まで)					
注2 以外規	②採用者数 【令和6年4月1日～4月30日】		新卒者数 注3			
			既卒者数 注3			
注2 以外規	職員数(実人員)【令和6年4月1日現在】					
	換算数(小数点第1位まで)					

※「換算数」=勤務時間/日÷常勤職員の勤務時間/日
常勤職員1人あたりの勤務時間数が8時間の場合、4時間勤務職員の「換算数」は0.5となる。

問3 常勤看護職員の時間外勤務についてお答えください。【令和6年10月実績】

常勤看護職員 注4	一人当たり 平均(_____ 時間) / 月 最長(_____ 時間) / 月
-----------	---

問4 夜勤回数に該当する常勤看護職員数(新卒を含む)及び看護補助者数についてお答えください。
(夜勤専従者を除く)【令和6年10月実績】

勤務形態	3交代(変則3交代含む)						2交代(変則2交代含む)					
	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上	
看護職員数(実人員)	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
看護補助者数(実人員)	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

※1カ月のうちに3交代と2交代を両方行った人は、2交代を3交代に換算する。(2交代1回を3交代2回として計算)

問5 令和5年度の看護職員及び看護補助者の状況についてお答えください。

1) 看護職員数及び看護補助者数を従事している職種別にご記入ください。

(ただし、①と⑩については、昨年度のご回答をもとに、当方で記入済みです。)

区分	看護職員					看護補助者	
	保健師	助産師	看護師	准看護師	計		
正規	①職員数(実人員)【令和5年4月1日現在】						
	換算数(小数点第1位まで)						
	②職員数(実人員)【令和6年3月31日現在】						
		③採用者数 注5	新卒者数				
			既卒者数				
	令和5年度	④離職者数 注5	(1)定年退職者数				
			(2)新卒離職者数				
			(1)(2)以外の離職者数				
			計				
	⑤育児休業中の職員数(実人員)【令和6年3月31日現在】						
⑥介護休業中の職員数(実人員)【令和6年3月31日現在】							
⑦時間短縮勤務職員数(実人員)【令和6年3月31日現在】							
令和5年度	⑧病休・休職等職員数(実人員) 注6						
	⑨夜勤専従職員数	注7	実人員				
			延べ回数	3交代(変則3交代含む)			
		2交代(変則2交代含む)					
⑩職員数(実人員)【令和5年4月1日現在】							
⑪職員数(実人員)【令和6年3月31日現在】							
正規以外	⑫採用者数						
	⑬離職者数 ※契約期間満了退職者含む						
	令和5年度	注7	実人員				
			延べ回数	3交代(変則3交代含む)			
		2交代(変則2交代含む)					

2) 正規看護職員の平均年齢、有給休暇、年間休日等についてお答えください。

①平均年齢 【令和5年4月1日現在】	() 歳 ※小数点第1位まで記入
②年次有給休暇の取得状況 【令和5年度実績】	(一人あたり)日/年 ※小数点第1位まで記入
③年次有給休暇の時間単位での取得 【令和5年度実績】	1. できる(※半日取得可能な場合も含む) 2. できない
④所定年間休日総数 【令和5年度実績】	() 日

問6 令和5年度の母性保護、育児、介護休業に関する制度についてお答えください。

1) 母性保護制度を導入していますか。 1. はい 2. いいえ

以下、「1. はい」と回答された方のみお答えください。(複数回答可)

各制度の導入の有無について○印をしてください。また、「1. あり」の場合は、制度利用の有無についても○印をしてください。

項目	導入について		利用について	
	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
① 夜勤・当直免除	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
② 夜勤・当直日数減	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
③ 超過勤務免除	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
④ 変形労働時間の適用除外	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑤ 時差通勤	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑥ つわり休暇	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑦ 通院休暇 (保健指導・検診受診時間の確保等)	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑧ 配置転換	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑨ その他 ※上記以外の制度を設けている場合は 内容をご記入ください。				

※変形労働時間制: 1週間の労働時間が40時間を超えなければ、特定の日などに法定労働時間を超えて労働させることができる。

2) 育児休業制度を導入していますか。 1. はい 2. いいえ

以下、「1. はい」と回答された方のみお答えください。(複数回答可)

各制度の導入の有無について○印をしてください。また、「1. あり」の場合は、制度利用の有無についても○印をしてください。

項目	導入について		利用について	
	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
① 育児休業	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
② 子の看護休暇	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
③ 所定外労働の制限	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
④ 時間外労働制限	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑤ 深夜業の制限	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑥ 短時間勤務	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑦ フレックスタイム制	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑧ 始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑨ 託児施設の設置運営	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑩ その他 ※上記以外の制度を設けている場合は 内容をご記入ください。				

3) 介護休業制度を導入していますか。 1. はい 2. いいえ

以下、「1. はい」と回答された方のみお答えください。(複数回答可)

各制度の導入の有無について○印をしてください。また、「1. あり」の場合は、制度利用の有無についても○印をしてください。

項目	導入について		利用について	
	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
① 介護休業	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
② 介護休暇	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
③ 時間外労働の制限	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
④ 深夜業の制限	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑤ 短時間勤務	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑥ フレックスタイム制	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑦ 始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑧ 介護サービス費用の助成	1. あり	2. なし	1. あり	2. なし
⑨ その他 ※上記以外の制度を設けている場合は 内容をご記入ください。				

問7 令和6年度の研修体制やキャリアアップについてお答えください。

1) 教育研修体制

① 継続教育研修プログラム	1. あり	2. なし	
② 看護部門における教育研修責任者の配置	1. あり (1. 専従 2. 兼任)	2. なし	
③ 病棟・外来などでの教育担当者の配置	1. あり (1. 専従 2. 兼任)	2. なし	
④ 新規採用者の 教育研修計画	新卒採用者	1. あり 厚労省のガイドラインに沿った研修体制 (1. あり 2. なし)	2. なし
	既卒採用者	1. あり	2. なし
	看護補助者	1. あり	2. なし
⑤ 看護補助者の研修プログラム	1. あり	2. なし	

2) キャリアアップのための支援(各制度の導入の有無について該当するものに○を付けてください。)

進学	大学・大学院等	1. 奨学金制度	2. 休職制度	3. 勤務調整
	看護師の養成所 (通信制含む)	4. 代替職員の配置	5. 旅費の援助	6. 授業料の援助
資格取得	看護管理者	1. 奨学金制度	2. 休職制度	3. 勤務調整
	専門看護師	4. 代替職員の配置	5. 旅費の援助	6. 授業料の援助
	認定看護師	1. 奨学金制度	2. 休職制度	3. 勤務調整
	特定行為研修	4. 代替職員の配置	5. 旅費の援助	6. 授業料の援助
	国内外留学	1. 奨学金制度	2. 休職制度	3. 勤務調整
		4. 代替職員の配置	5. 旅費の援助	6. 授業料の援助

令和6年度 広島県看護職員の職場環境づくり実態調査
注 意 事 項

【1 ページ 問2】

注1 看護職員数及び看護補助者数（令和6年4月1日現在）

- ・看護職員数及び看護補助者数（実人員）とは、正規職員で在籍している全職員数を従事している職種別に記入してください。（育児休業、介護休業、長期病気休業等の職員も含む）
- ・4月1日採用の新卒看護職員は、免許申請していれば看護職員数に入れてください。
- ・換算数とは、常勤勤務時間を1日8時間/週40時間とした場合、その常勤勤務時間を基に計算した人数です。（常勤職員1人＝換算数1人）
- ・換算数の計算は、短時間勤務する正規職員がいる場合（育児短時間勤務など）、下記の計算で換算数を出してください。（育児休業、介護休業、長期病気休業の人は、勤務時間が無いので換算人数に入れない）

（計算式） 週の勤務時間÷40時間＝換算数

（例）：1日4時間で週5日勤務＝週20時間勤務の人

20時間÷40時間＝0.5人（換算数）

1日6時間で週3日勤務＝週18時間勤務の人

18時間÷40時間＝0.45人（換算数）

1日8時間で週4日勤務＝週32時間勤務の人

32時間÷40時間＝0.8人（換算数）

上記の3人の短時間勤務者の換算数は、 $0.5+0.45+0.8=1.75$ 人となる。

よって、3人の換算数（小数点第1位まで）は、1.8人である。

常勤勤務者が10人と上記の3人の短時間勤務者がいる場合、
職員数の合計は13人、換算数は11.8人である。

注2 正規、正規以外

- ・正規職員とは、原則としてフルタイム勤務であり、雇用の形態が無期雇用かつ直接雇用の職員をいいます。（正規職員の育児短時間制度利用者、短時間勤務者も含む）
- ・正規以外とは、定年後再雇用者、派遣労働者、契約社員、臨時・パートタイム労働者等の有期雇用者です。

注3 新卒者、既卒者

新卒者とは、看護師等免許を取得して1年未満の者をいい、既卒者とは看護師等免許を取得して1年以上の者をいいます。

【1 ページ 問3】

注4 常勤看護職員

- ・常勤とは、施設が定めている所定労働時間を勤務する職員です。（フルタイム勤務者）
- ・常勤と非常勤は勤務時間により区分する職員です。
- ・常勤と正規職員を混同しないでください。（常勤≠正規職員）
- ・定年後再雇用者、派遣労働者、契約社員、臨時がフルタイムで働いている場合は常勤です。

（裏へ）

【2 ページ 問5】

注5 採用者数、離職者数

- ・令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日の期間）1年間の採用と離職の人数です。
- ・再雇用や任用替え、准看護師から看護師に雇用し直す場合の記入方法は次の通りです。

- 1) 正規職員が誕生日で定年退職し、年度内に再雇用した場合、正規職員の定年退職者数欄に計上するとともに該当する採用者数欄へ計上。
- 2) 正規職員が3月31日で定年退職し、翌年度（4月1日以降）に再雇用した場合、正規職員の定年退職者数欄に計上。採用者数欄へ計上は翌年度の調査時に採用欄に計上。
- 3) 正規以外から正規職員への任用替えの場合、正規以外の退職者数欄に計上するとともに正規職員の採用者数欄へ計上。
- 4) 准看護師として雇用していた職員を看護師として雇用する場合、准看護師の退職者数欄に計上するとともに看護師の採用者数欄（既卒者の欄）へ計上。
- 5) 同一法人内の他施設への異動は、退職者数欄と採用者数欄に計上。
- 6) 助産師業務から看護師業務への院内異動は記入不要。

注6 病休・休職者

- 1 か月以上の長期病休・休職者の実人員数です。
（1年間の内に、一人の職員が、復職や休職を繰り返しても1人と計算）

注7 夜勤専従職員数

- ・実人員数とは、令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日の期間）1年間で夜勤専従を行った人の人数です。

（例）12か月夜勤専従をした人が1人、
6か月夜勤専従をした人が1人、
2か月夜勤専従をした人が3人
上記の夜勤専従の実人員は、5人となる。

- ・延べ回数とは、令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日の期間）1年間、全ての夜勤専従者が行った夜勤の回数です。

（例）12か月夜勤専従をした人は1人で、月に3交代夜勤を16回行った＝192回（3交代）
6か月夜勤専従をした人は1人で、月に3交代夜勤を16回行った＝96回（3交代）
2か月夜勤専従をした人は3人で、1人につき月に2交代夜勤を8回行った＝48回（2交代）
上記の夜勤専従者の夜勤延べ回数は3交代が288回、2交代が48回となる。